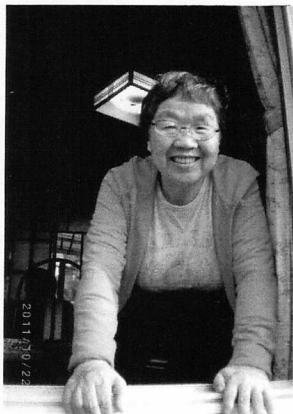




★岡八代美さん(撮影:田頭知恵美さん)は、弓削中郡にあるNPO「繋れるふるさとネット」の拠点で幼少年期を育ちました。

八代美さんからの便り

弓削に行ってきました。3泊4日の旅行は、ふたりの職員に付き添ってもらって大尽旅行のようなものでした。私の今回の旅行で感激したのは、男の子のお祭りに、女の子も入ったことです。やっこさんにも女の子がいたし、だんじりにも女の子がいたし、お神輿にも女の子がいました。私らの時は考えられないことです。



お祭りといえば男の子が出る行事、女の子はただ綺麗な洋服を着てしゃなりしゃなりと見てました。

私の昔の記憶は子どもがもすこし大きかったと思いましたが、今回見て、お祭りの子どもは小さかったです。そして女の子が混じっているせいでしょうか、どれが女の子か男の子か分からないくらい声が高かったです。過疎だ過疎だと言われバカにされてましたが、女の子がお祭りに出れるなんて。過疎で十分というか、過疎上等という気がしました。

昔大阪の太田知事が、女だから土俵に登れないと言っていましたけど、お祭りっていうものは男のものであって、女のものではなかった。私の郷里にすれば、何と今は良くなったことよと思います。これが何より伝えたかったし、行列を見て拍手を何度かしましたが、その拍手は、女の子のしっかりしてというつもりでした。

衰退の一途か？我が町は

この町が衰退期にあるのかどうかは、住民の皆さんが一番肌身にかけておられるだろう。そうであつてもうなづけるものがあるし、そうでなくてもまたうなづけるものがある。もし衰退期にあるとすれば、その原因がどこにあり、衰退とはいへぬとすればその原因はどこにあるのか。

「衰退」という言葉を元氣なくしたという風にとらえると、何を元氣とするかという議論になるし、「元氣」を人的な要素あるいは経済的な要素でみれば、また一筋縄ではゆかぬ議論も生まれてくる。ここでひとつ言えるのは、議論は大事だが議論だけでは問題解決にはならないということ。議論とはそもそも物事を動かす下地でしかなく、要は具体的

にどう動くかで議論も生きたり死んだりする。

若者の動きに目を向けよ
 いま島には様々な人々が往来している。

高齢者の方にはおなじみの弓削上弓削にある地域密着型小規模多機能高齢者福祉施設、通称「ふくふく」は、2005年N

具体的に動く若者たち

特別養護老人ホームほかを経営している「社会福祉法人中都(なかと)」の理事長、岡八代美さんをして「わたしもここにいたい」と言わしめた。

この町を支えてきたお年寄りの後半生をどうお世話するかは、ひいてはこの町に住みたい、住み続けたいと思わせる、いわゆる町づくりの一翼を担うことになる。

町を生かすのは町民自身

P.O法人に認定された。創設者の竹林健二氏は役場職員を辞しての小規模な給食サービスから始め、島の実情にあった介護の理想を追い求め現在の施設までたどり着いた。

外から来て町をたて直す
 一方で、ではこれからの町を誰がどう担うかに心を砕いているのが、下弓削にある「町民の町民による町民のための会社」を標榜し2008年「島の会社」を立ち上げた兼頭一司(かねと一・かずし)氏であろう。

竹林氏が弓削の生まれながら、兼頭氏は西条市(もと丹原)出身。一家で弓削に移り住み地産地消と島民の交流の場として「しまでCafe」(しまカフェ)を運営しながら島や町のあり方を模索している。

自分のできる用を考えよ
 李白の詩に天は我材をなす。必ず用ありという一節がある。人間という者は誰もがこの世に己の果たすべくつとめがあつて生まれてくる。用というはつとめをさし、生涯に己のつとめを自覚できる者は、たとえ辛いつとめであろうと幸せと言えらるだろう。今我々は改めて自分のできるつとめに思いを馳せるときはあるまいか。(平山和昭)

●日時十一月十五日 火曜日
 ●場所やよみ亭 午後七時開始
 ●参加資格性別年齢問はず
 ●木戸銭なし。カンバ歓迎。

キャスト 役所広司
 原作 池宮彰一郎
 監督 三池崇史

●さしあげます。(純正品)
 <キャノン・プリンターインキ>
 7eBK (BCI-7eBK) 黒2個、3eBlack (BCI-3eBK) 黒1個、3ePhotoBlack (BCI-3ePBK) 黒1個、7eY (BCI-7eY) 黄1個、7eC (BCI-7eC) 青1個 (先着順0897-72-9188まで)

きんぐち(十八)

青木喜代子

山々が紅葉してくると修学旅行を思い出す。私の通っていた高校では九州班か関東班かのどちらかを選ぶことが出来た。信州の紅葉、白樺の林を見たいと、私は関東に決めた。



秋の紅葉や 猪鹿蝶

所持品について当時は厳しい検査もなく注意だけに終わった。「君達は高校生なんだから物事の善し悪しはわかるよ、ね」と先生方の極めて甘い考えは後にとんでもないことになる。

その頃私は花札に夢中だった。実家で働いていた人に毎晩のように教えてもらった。真つ白い座布団カバーは二日もすれば札の赤い

色にそまり、一週間もすれば札の角はささくれて白くなる。見かねた母「アンタたち、いい加減にして！」すると師匠は「ネエさんと援護射撃。おかげであつた」と楽しさを知ってしまった。

旅ゆかば
 秋の紅葉や
 猪鹿蝶

あこがれの白樺林もガイドの話も退屈になり、「花札やる？」「やるー」あろうことかバスの後部で場が開かれた。最初はおそひそひとやっていたが、「猪鹿蝶だ！」と、私の大声が車内にひびいた。

先生「誰がこんなもん持って来いと云った！」
 男子生徒「持つてきたらだめと云つてないで」
 とで、かなうはずもなく取り上げられた花札の箱には、メモ魔の母の字で、昭和〇年十月吉日求む。〇〇円也。それを見た先生が「君のお母さんはこんな物にまで書くのか」と大爆笑となり、なんとなく無罪放免になった。一方の九州班では、ホテルの閉鎖されたプールに飛び込んで大目玉をくらったとかきいた。

ヤンチャしていたメンバーの中に、どこで改心したのか教職に就いた奴がいる。どんな顔して引率に行ってるんだろう。一度見てみたいもんだ。



遊びと子どもで地域つながる

舶来文化ハロウィン

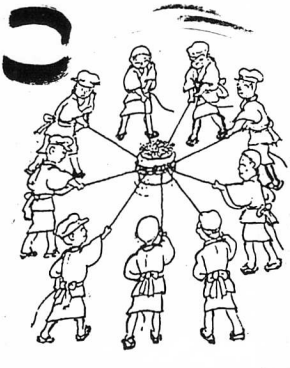
毎年十月最終日は「ハロウィン」ということで、今では全国の幼稚園や小学校では何らかの行事をしているところも少なくないようだ。学校でカボチャや紙細工で魔女のお面をつくったりしているのを目にした方もおられよう。

園や学校ではハロウィンに関して何らかの教え方をしているのか、単に行事につきものの小道具を作っているだけなのかは知らないが、これもクリスマスと同じくいずれ津々浦々に拡散するようになる気がする。子どもが主役、おとなの側からのプレゼントが付きもの、いずれも新しい年を迎える行事、という図式もクリスマスを連想させる。クリスマスが子どもたちに夢を与えたように、ハロウィンもまた子どもたちに夢を与えるのではないだろうか。

いつの時代も子どもは宝元は北欧系の宗教行事だったものが形骸化し、子ども達が家々をめぐり、お菓子やプレゼントをもらう部分が一歩ずつ進んでいるのだからとも思うが、単純に子ども達が近隣の人々とオープンに交流できる仕掛けと考えてみれば、核家族が進んでしまえば近隣のつながりが希薄になりつつある現在、我々にとってはなかなか悪くはない仕掛けだとも思う。

日本でも昔から「イノコ(亥の子)」という民俗があった。大正時代には廃れたとされるそれは、子ども達が数人でイノコ石と呼

ハロウィンといのこ



ばれる石を道路や庭の空き地にうちつけ、その家からお菓子やお祝儀をもらう。何もくれない家には悪態をつくというもの。ハロウィンでは魔女やお化けに仮装した子供達が近くの家に軒すつ訪ね「トリック・オア・トリート! (一馳走をくれなさいと悪戯するよ)」と叫ぶ。家では、カボチャのお菓子を作り子供たちは貰ったお菓子をもち寄りハロウィン・パーティーを開く。お菓子がもらえなかった場合は報復の悪戯をしてもよいという習俗もイノコに似る。ちなみに弓削の引野地区に残るイノコ歌には次のようなものがある。

「いーのこ いのこ いのこを祝わん家(うち)は 鬼うめ蛇うめ角のはえた子をうめ...」
なかなか殺伐たる歌詞だがハロウィンの魔女やお化けと通じ出る。むろんイノコ歌の殆どは目出度い歌詞だ。



「子どもと地域社会をつなぐ」
今では数キログラムもある石を道路に打ちつける行為は、道路事情からゆるめられぬことになったが、これからはすたれたイノコに代わるハロウィンになるやもしれぬ。

弓削では四年ほど前から商船高専の職員住宅の子ども達がやっていそうで先般偶然に地区に挨拶かておしりかけプレゼントにあずかっているのに遭遇した。地区全般に及んでいるのではないところからまだなじみが少ないようだが、こうした民俗が町内に拡散してゆけば秋祭り同様、子ども社会とおとな社会のかすきになるような気がしてならない。
(平山和昭)

一流人の考えることは...

安藤 朋生 茨城県



足の遅い台風がゆるゆると接近する中、汐留の豪華ラウンジにて展示会をめでていた。数日前にドレスコード有りと告げられ慌てふためきアオザイまで引っ張り出したが、これは流石にやり過ぎだろうと引っ込めて飾りの付いた黒のシャツに濃紺のパンツ、母から借りた真珠のネックレスを付けて出向くことに収まった。
アオザイとはベトナムの民族衣装である。ボディラインが決まっていればどんな嵐が来ようとも間違いなく着て出向いただろう。買った時の自信は何処へ行ったのか不思議だ。
行くとき最近仲良くなった木工家のK氏が緊張の面持ちで迎

えてくれた。ドレスで来るかと思ってきましたと言。どんなイメージを持っているのか。それほど大胆には出来ていないのだよ。一流ホテルのラウンジで展示会やってるそなたの方が大胆だと思うのだが。9時からちょっとしたパフォーマンスがあるというので、それまで話しなが



ら少し飲むことに。着実に飛躍している状況をどう思うかや、緊張を和らげようと笑わせてみたりしている所へもう1組友人が到着した。こちらはご夫婦で旦那さんは安藤が初めて声をかけたアーティストさんである。奥様は旦那さんを立てる気配りの利く可愛い人で、こういう女

子に生まれたかったといつも思う。各々にワインなど飲んでいるうちにパフォーマンスが始まった。一流ホテルの企画に多いのかコンテンポラリーダンス。今風な生き方という意味なのか日光の手前(マイ) 琴の演奏がとても良かったから許すことにして夫婦とホテルを出た。
企画は主催者によっては意思がズレることがあると思う。出来たら純粋に作品のコンセプトを作家自らに語って貰う方がいい場合もあるのではないだろうか。豊島美術館で鑑賞できる建築と一体化した作品があるように、触れることで感じる作品もある。ここまで言うのは木工家の作品である椅子をコンテンポラリーダンスに使う必要はなかったのではと言いたかったのだ。豊島の美術館さん、彼の椅子は最高です!

お便りから

今月の通信。ホワイトドルフィンが帰ってきたの記事、パリッ目に入り思わずパンザイをしました。よかったですね。自分の航路の廃止を知った時、この事のように辛かったです。J A病院を利用する方々どんなにかお困りと思いました。よかったです、よかったです。
私はJ A病院が移転する前しか知りません。移転後まだ身体

の調子は悪くはありませんが、もし通院の時はどうすればいいのかと案じておりましたが、今回の記事にバス便の様子を頂き安心しました。
(尾道市因島・O)
「たまゆら」考
「たまゆら」というアニメがTV放映されるのか。舞台は竹原。アニメ。子ども達によって沈んだ町もよみがえる。